

1人1台端末の活用による実践事例

学校名	倉敷琴浦高等支援学校	実践者名	数学科
実践場面 (教科)	1 年 数学		
単元・題材名	四則演算		
学習目標・ねらい	・ 基本的な四則演算を身につけ、四則の混合した式や、（ ）を用いた式の計算順序を理解することができる。（知識及び技能） ・ 数量の関係に着目し、式に表したり、式の意味を考えたりすることができる。（思考力・判断力・表現力等） ・ 計算に粘り強く取り組もうとすることができる。（学びに向かう力、人間性等）		
対象の児童生徒の実態	ADHDや場面緘黙等実態はさまざまであるが、授業に対して前向きに取り組む、積極的に発言できる生徒もいる。ただ、長時間集中し続ける力が不十分であることが学習課題として挙げられており、集中力が途切れないように授業を工夫することが重要である		
活用の概要（使用アプリ名を含む） ※写真も掲載する			
【ひゃくもん×÷】アプリを使用 ・ 毎授業のはじまりに行っている ・ 25マスで実施（100マスも選択できる） ・ 自分の力に応じて1～3分設定で、かけ算・わり算の計算練習を行う ・ 設定した目標を達成すると「目標達成!」や「最高記録達成!」などのコメントが表示される →次回の授業へのやる気につながっている			
			
活用のポイント・改善策等			
【活用のポイント】 ・ 百マス計算を行うことで計算力の向上、集中力の向上、達成感の実感が得られる。 ・ 計算力に応じて段階的に目標を設定し、無理することなく継続して取り組むことができる。 【改善策等】 ・ 教師タブレットで生徒の進捗状況を把握できれば良い。 ・ タッチパネルより書く方が計算しやすいという生徒に対しての対応が必要。（書く or 入力）が選択できるようになれば特性に応じて対応できる）			